

貴重図書展示「貴重書名品展」

期間：2022年4月8日（金）～6月30日（木）
場所：中百舌鳥図書館1階貴重図書展示ケース

ものぐさたろうえまき
物真太郎絵巻 写 一卷



室町時代物語。もと冊子本であったものを巻子に改装したもので、六十一紙を継いでいるが、そのときの錯簡、落丁が見られる。本巻は最も原絵巻に近いもので、かつ書写年代も原絵巻の成立時よりそれほど時間が経過していないものと考えられ、慶長期（一五九六～一六一五年）を下らぬ頃のものと考えられている。

どうじょうじそんぎえまき
道成寺縁起絵巻 写 二巻



道成寺所蔵本を江戸時代に入って土佐派の画家が忠実に模写したもの。模本であるが、かなりの出来栄えて、あるいは『考古画譜』が言う桑名松平家の模本であるかも知れない。

げんじものがたりにしきえ
源氏物語錦絵 刊 一合
三代歌川豊国画 一筆斎刊



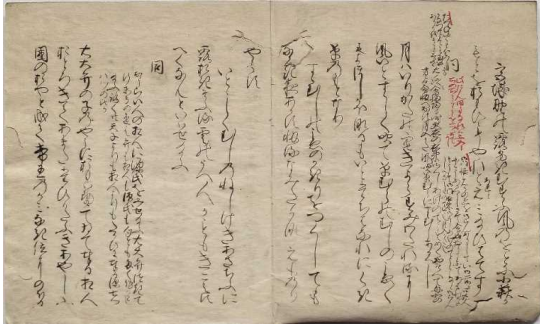
一巻一枚で五十四枚揃。巻名の由来となった和歌、源氏香図を付す。

いやぞろし
岩屋草子 写 横一冊



室町時代物語。奈良絵本。継子いじめ型の恋愛物語で、諸本に異同が多い。寛永以後には版本として何度も出版された。本書には六枚の奈良絵が収められている。

げんじものがたりことば
源氏物語絵詞 写 一冊



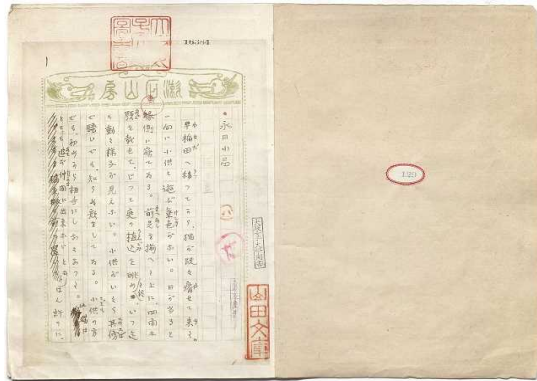
『源氏物語』の各巻から、画になりやすい場面を数ヶ所ずつ選んで本文を抜き出すとともに、その絵の内容を細かく指示したものが、冒頭に後陽成天皇即位前の筆跡である旨が注記されているが、その真偽はともかく、室町時代ごく末期の書写とみなしてよいだろう。

あやね竹 刊 三冊



江戸の菱川師宣に匹敵する浮世絵の先駆者である上方の浮世絵師・大森善清による、中国古典を題材にとった「絵本」。そもそも本書は現存するものが極めて少なく、それだけでも貴重であるが、大阪府立大学本は現存唯一の完本であり、大森善清の画業を知るうえでの基準作となる。

ねこ はか
猫の墓 明治四十二年（一九〇九）掲載



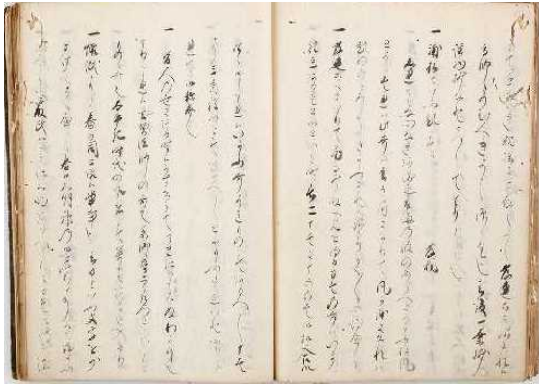
自筆原稿。明治四十二年1月二十三、二十四日に「大阪朝日新聞」、同年同月二十五、二十六日に「東京朝日新聞」に掲載された『永日小品』の第八編で、「吾輩は猫である」のモデルとなった飼い猫の死にまつわる話が書かれている。小品とは、エッセイ風の表現に物語を組み込んでいく手法で、日露戦争後に注目されるようになったジャンル。原稿用紙は、漱石の著書の装丁を多く手掛けた橋口五葉がデザインし、馴染みのある春陽堂が印刷した漱石山房原稿用紙である。

れいぜいためかけあそんわかしゅう
冷泉為景朝臣和歌集



下冷泉為景の家集。為景より五代後の為栄、その嗣子為訓の歌集が合綴されている。三人の歌集が三つに分かれておらず、為景（二八八首）、為訓（二八首）、為栄（五三首）、為景（二八首）、為栄（五一首）とならぶ。なお、本書は『近世初期諸家集 下』（古典文庫）に翻刻が収められる。

そんしきき
尊師聞書 写 一冊



外題「尊師聞書」（表紙右肩に打付書）。内題「尊師聞書」（巻首題）。飛鳥井雅章述、心月亭孝賀記校訂の歌学書。孝賀が寛文四年（一六六四）に雅章に入門してから、延宝年間（一六七三～一六八一）までに受けた教えを五六〇余条にわたって記録したもの。

ひやくにんいっしゆざんしやう
百人一首像讚抄 刊 一冊 元禄5年（1692）



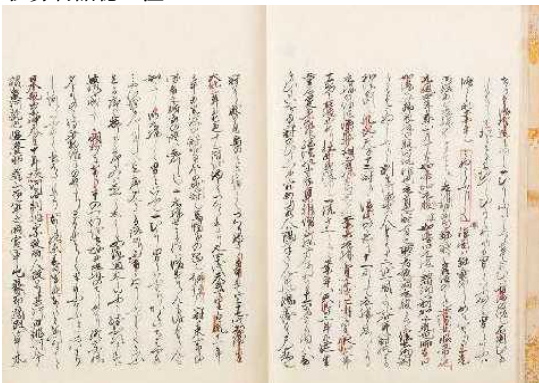
和歌の後にまず歌人についての説明があり、次に歌意や収録された歌集などの説明が詳細に述べられている。しかし、これらは細川幽斎の『百人一首抄』に誤りも含めてほぼ一致しており、それに菱川師宣がそれぞれの和歌の情景に合わせて絵を付けた形である。

とがのいっしつ
梅井一室聞書



外題「梅井一室／聞書」（表紙左肩に打付書）。内題なし。上方の地下二条派歌人、梅井一室（一七二二—一七九一）の言説を、門人が六九条にわたって書き記した書。記者は不明。他に伝本のない孤本。

いせものがたりひちゆう
伊勢物語秘々注



松永貞徳一望月長孝一平間長雅と流れてくる、いわゆる地下派の「伊勢物語」の注釈を、有賀長伯（一六六一—一七三七）がまとめた書。細川幽斎の「闕疑抄」をはじめ、旧注を集大成したものである。東洋文庫に「享保十八年」の奥書を持つ伝本が知られる。本書は、奥書に、東洋文庫には見られない一条「雖然懇望及数年、依難辞令附与訖。如誓盟全不可有他見漏脱者也。」があり、さらに享保二十年（一七三五）に、豪商鴻池家四代目の喜右衛門宗羽に与えたことが記されている。